

# 利便性と自然が 調和するまち

かつて「長岡京」の都が置かれ、王城の地として栄えた長岡京市は、歴史と西山の緑に育まれてきました。京都・大阪の二大都市を結ぶ中間に位置する地の利にも恵まれ、豊かな自然や歴史資源、先端産業が共存するまちとして発展を続けています。



JR長岡京駅西口周辺



阪急新駅「西山天王山駅」イメージ図



西山森林ボランティア行事での記念撮影



朝日が差し込む竹林



西山の恵みタケノコ



西山森林ボランティア行事

## 自

慢や誇りに思うものとして、市民アンケートのトップに上げられたのが「交通の利便性」です。中央部を阪急京都本線、東部をJR東海道本線が走り、京都の中心部へは10〜15分、大阪へは約30分で行くことができます。

また、市の東部には、名神高速道路や国道171号、東海道新幹線が南北に縦走しています。

市の南部から西山へ通ずる京都第二外環状道路(にそと)平成25年3月開通予定は、名神高速道路と京都縦貫自動車道をつなぐことになり、新たなにぎわいと交流を生み出すことが期待されています。にその高架下には阪急新駅「西山天王山駅」(平成25年度下半期開業予定)も建設され、南部地域の活性化に新たな一歩を踏み出します。

また、市内の交通が不便な地域の解消や、高齢者の交通手段を確保するために、平成18年10月から、コミュニティバス「はっぴいバス」を運行しています。北コースと西コースの2つのルートを走り、夏休みには子ども無料乗車を実施するなど、市民に親しまれています。



コミュニティバス「はっぴいバス」

## 市

市民アンケートで、「交通の利便性」に次いで多かったのが、「歴史的景観」と「みどりの景観」です。市民憲章にも「長岡京市の古い歴史と伝統は心にうるおいを与え、西山の豊かな緑は明日への英気を養ってくれます」とうたっています。

市の総面積の約40%を占める西山には、多くの木々や動植物が生育し、貴重な緑の資源であるとともに、代表的な景観となっています。ハイキングスポットとして、市外からも多くの人が訪れ、自然に親しんでいます。

## 美

美しい西山を守り、育てるために、市民団体や森林所有者、地元企業、行政などが、協働で森林整備に取り組んでいます。平成17年には「西山森林整備推進協議会」

を組織し、保全活動を進めています。本市では、市民活動が活発で、中でも放置竹林や森林の整備、自然保護に取り組む市民団体が数多く活動しています。また、毎年秋に開かれる森林ボランティア行事には、大人から子どもまで150人を超える市民が参加しています。これらの活動を通して、一時は衰えを見せた森林も、地下水のかん養や二酸化炭素の吸収など、森林が持つ本来の機能を取り戻してきました。

また、西山で育まれた地下水を利用できる施設として、勝竜寺城公園に「ガラシャおもかげの水」を設置しています。地下水100%の水道水を汲むことができ、毎日多くの市民が訪れています。



ガラシャおもかげの水

## 西

山の恵みとして、忘れてはいけないのがタケノコです。ふもとに広がる竹林では、本市の特産品であるタケノコを、農家のみなさん

が愛情を込めて育てています。本市を含む乙訓地域一帯のタケノコは、「京都市軟化栽培法」と呼ばれる方法で育てられ、色が白く、柔らかな食感が特長です。旬の季節には、市内のあちこちでタケノコ直売店が姿を見せ、春の風物詩となっています。

市の西部にある寂照院(じやくしょういん)は、宇治黄檗山の僧が、中国から持ち帰った孟宗竹を植えたとする伝承があり、「孟宗竹発祥之地」の石碑が建てられています。また、境内の一角に保存されている竹林は、平成24年に京都府の登録有形文化財(天然記念物)に登録されました。

## 自

然と歴史が織りなす景観を次世代に引き継ぐために平成21年に景観条例を定めました。市内には、西山の緑を背景に、竹林や田畑などの自然が市街地に多く残り、長岡天満宮や光明寺などの神社仏閣のほか、江戸から大正に建てられた国登録有形文化財の古民家など歴史資源にも恵まれています。このまに暮らす人たちが、ほっと落ち着き、誇りやふるさととしての思いを抱く景観づくりを進めています。